

長野県屋代高等学校附属中学校（仮称）の概要について

高校教育課

1 設置の基本的枠組み

(1) 設置の目的等

ア 目的

中学校と高等学校の6年間を接続することで、「ゆとり、まじわり、つながり」のある学校生活を送ることができ、計画的・継続的な教育指導を展開することで、生徒の個性の伸長や優れた才能の発見がより期待できる。また、異なる学年の生徒同士の共通の活動を通して、社会性や豊かな人間性の育成も期待できる。

イ 経過

「第1期長野県高等学校再編計画」(平成21年6月)において、多様な学びの場を提供するために、平成13年の中高一貫教育検討委員会報告書を基本に据えて、配置、形態、地域のニーズ等を考慮し、新しいタイプの高校の一つとして、中高一貫教育を導入することとした。

また、平成21年12月、県教育委員会定例会において、平成24年4月に、長野県屋代高等学校に県立中学校を設置し、併設型中高一貫校に転換することが決定された。

(2) 校名

長野県屋代高等学校附属中学校（県立中学校設置条例・管理規則制定までは仮称）

(3) 設置場所

長野県屋代高等学校の敷地に設置（長野県千曲市屋代1000）

(4) 設置形態

併設型中高一貫教育校

(5) 学校規模

中学校 1学年2学級 80名（男女同数を基本とする。）

(6) 通学区域

当面県内全域とするが、自宅からの通学を基本とする。

(7) 開校年度

平成24年4月（屋代附属中学校1年生受け入れ開始）

(8) 高等学校の課程、学科

全日制教育課程、普通科

2 教育方針

(1) 教育理念（長野県中高一貫教育の理念）

人の心の痛みのわかる豊かな人間性の涵養、伸びる力を伸ばす学力の向上などにより、さまざまな分野でリーダーシップを発揮することができ、社会のために貢献できる人材の育成を目指す。

(2) 教育目標

- 1 学力の充実と、知性の啓発に努める。
- 2 自主独立の気風を養い、創造性を育成する。
- 3 情操豊かな人間性を陶冶し、健康な心身を鍛錬する。

(3) 目指す生徒像

教育目標に基づき、「質実剛健」「文武両道」の校風のもと、下記の生徒の育成を目指す。

高い知性と創造性

- 1 揺るぎない学力や豊かな教養を持った生徒
- 2 知的好奇心や科学的探究心による豊かな創造力を持った生徒

豊かな人間性

- 3 自然や文化を愛し、豊かな感性と表現力を持った生徒
- 4 人間を尊重し、連帯感を持ちながら共に向上する生徒

健やかな心と体

- 5 高い志を持ち、自己の未来を拓く、心身ともに健康な生徒

3 教育課程の概要

(1) 教育課程編成の基本方針

- ア 確かな学力の上に豊かな教養を育てる6年間を通じた教育課程を編成する。
- イ 屋代高等学校全体の活性化に繋がり、高い倫理観、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力を養える教育課程を編成する。
- ウ 一人ひとりの個性や才能を伸ばし、高い志のもと、多様な進路の実現を可能にするための、6年間の効果的かつ継続的なキャリア教育が行える教育課程を編成する。
- エ 屋代高等学校の特色である理数教育の充実と発展を図り、科学的探究心や実験的精神を育成できる教育課程を編成する。
- オ 国際社会に生きる日本人としてのアイデンティティの育成と国際感覚を育てる教育課程を編成する。
- カ 学習を充実させるためのコース編成、指導方法、指導形態等を工夫した教育課程を編成する。

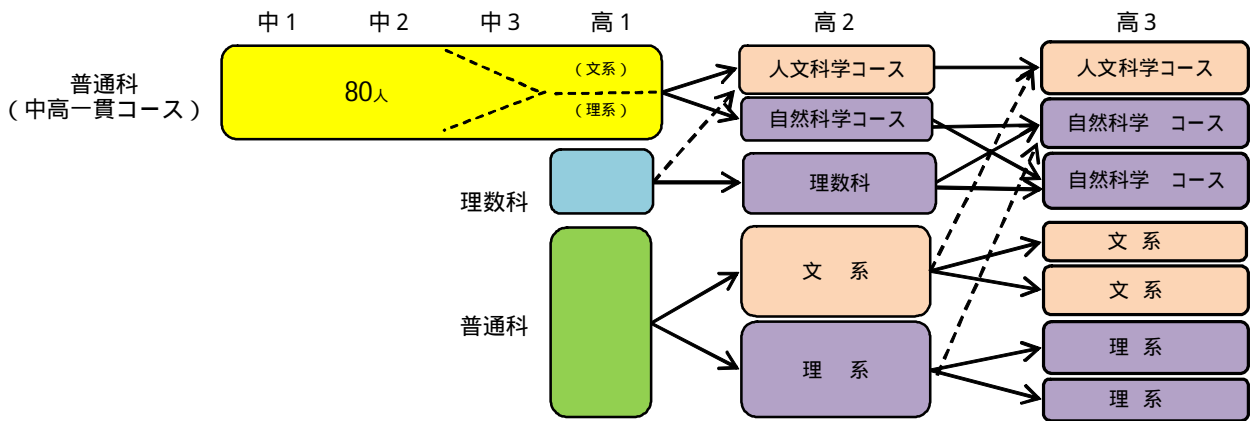
(2) 中高一貫による6年間の教育の流れ

中学高校の6年間を、2年間ずつ基礎期・充実期・発展期（仮称）の3期に区分し、それぞれの発達段階に応じた学習活動を行う。

学年	屋代附属中学校			屋代高等学校		
	中1	中2	中3	高1	高2	高3
区分	基礎期			充実期		発展期
学習	学習習慣の確立を図りながら、基礎的学力と学習方法を習得する。 学ぶ楽しさを味わい学習への興味・関心・意欲を高める。			自発性、自主性を生かしながら、幅広い確かな学力を習得する。 深化・発展学習の充実を図り、活用力や思考力を育成する。		進路希望別にコース・講座編成を行い、個性・能力・進路に応じた学力を習得する。 選択講座を通して実践力、応用力を育成する。

(3) 学級・コース及び講座編成

屋代附属中学校から屋代高等学校へ進学した生徒（内進生）と一般の中学校から進学した生徒（外進生）を混合した生活集団としての学級編成は行わないが、教科・科目に応じて、内進生と外進生を混合したコース及び講座構成を行い、共に学び、互いに切磋琢磨できる授業を展開する。また、内進生の中高一貫コース内においては、クラス替えの時期は未定だが、学級編成を行う。



コース名は仮称

- 文系 ……………私立文系
- 人文科学コース 及び 文系 ……国公立文系
- 自然科学 コース 及び 理系 ……国公立理系(医歯薬理工系他)
- 自然科学 コース 及び 理系 ……国公立理系(看護系、農学、教育理系他)

(4) 日課 月～金

SHR	8 : 3 0 ~ 8 : 4 0	10 分
1 校時	8 : 4 5 ~ 9 : 4 0	55 分
2 校時	9 : 5 0 ~ 1 0 : 4 5	55 分
3 校時	1 0 : 5 5 ~ 1 1 : 5 0	55 分
4 校時	1 2 : 0 0 ~ 1 2 : 5 5	55 分
昼 食	1 2 : 5 5 ~ 1 3 : 4 0	45 分
5 校時	1 3 : 4 0 ~ 1 4 : 3 5	55 分
6 校時	1 4 : 4 5 ~ 1 5 : 4 0	55 分
清 掃	1 5 : 4 5 ~ 1 6 : 0 0	15 分
SHR	1 6 : 0 5 ~ 1 6 : 1 5	10 分

(5) 教育課程（カリキュラム）

ア 屋代附属中学校の1～3年次のコマ運用表(1週・30コマ分)

学年	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健体育	技術家庭	総合的な学習	特別活動	学校設定科目
1年	4	3	4	3	4	1.5	1.5	3	2	1.5	1	0.5
2年	4	3	3	4	4	1	1	3	2	2	1	1
3年	3	4	4	4	4	1	1	3	1	2	1	1

1コマ55分のため、通常の単位設定(コマ設定)よりも修得単位は1割増しになります。

イ 授業時間表

学年		1年			2年			3年		
教科等		55分授業 週単位数	年間授業 時間数	標準授業 時間数	55分授業 週単位数	年間授業 時間数	標準授業 時間数	55分授業 週単位数	年間授業 時間数	標準授業 時間数
必修教科	国語	4	154	140	4	154	140	3	115.5	105
	社会	3	115.5	105	3	115.5	105	4	154	140
	数学	4	154	140	3	115.5	105	4	154	140
	理科	3	115.5	105	4	154	140	4	154	140
	音楽	1.5	57.75	45	1	38.5	35	1	38.5	35
	美術	1.5	57.75	45	1	38.5	35	1	38.5	35
	保健体育	3	115.5	105	3	115.5	105	3	115.5	105
	技術・家庭科	2	77	70	2	77	70	1	38.5	35
	外国語	4	154	140	4	154	140	4	154	140
	道徳	1	38.5	35	1	38.5	35	1	38.5	35
特活	1	38.5	35	1	38.5	35	1	38.5	35	
学校設定科目	科学リテラシー	0.5	19.25	0	1	38.5	0	1	38.5	0
総合的な学習の時間	鳩学	1	38.5	50	1	38.5	70	1	38.5	70
	キャリア教育等	0.5	19.25		1	38.5				
週単位数		30	32	29	30	32	29	30	32	29
総授業時間数			1116.5	1015		1116.5	1015		1116.5	1015

* 総合的な学習の時間「鳩学」の授業時間は、上記表では教科の授業時間に含めているが、指導計画作成後は、各教科の時間から差し引き、総合的な学習の時間として位置づける。

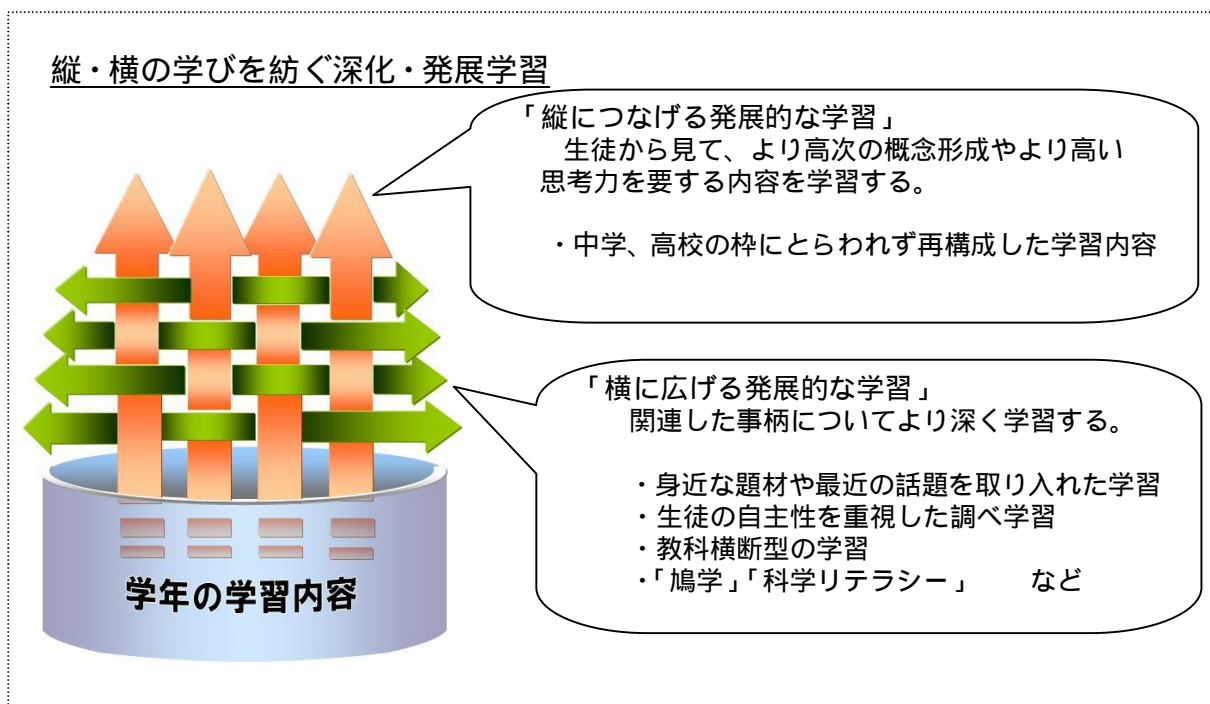
4 中高一貫校の魅力ある教育

(1) 中学・高校の枠にとらわれない学習内容の再構成

高校入学者選抜のないゆとりある学校生活の中で、中高一貫のよさを生かし、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るとともに、中学・高校の枠にとらわれず学習内容を再構成し、より計画的・継続的な学習活動を展開する。学習指導要領に定める教育課程の基準の特例措置を活用し、知的好奇心や探究心に支えられた発展的な学習を取り入れ、無理のない効果的な6年間の学習指導（屋代学習指導プログラム）を実践し「確かな学力」を育成する。

(2) 「深化・発展学習」(発展的な学習)

豊富な授業時間を生かし、学習指導要領に示されている学習内容を確実に定着させた上で、学習内容の理解をより深める学習を行ったり、さらに必要に応じて高校等の学習内容を取り入れた学習を行ったりするなどの「深化・発展学習」を行い、知的好奇心や探究心を育む、より充実した発展的な学習を導入する。



(3) 中高教員の乗り入れ授業

中学校、高校教員の相互乗り入れの教科指導により、中高一貫の内進生は高校での教科履修を見据えた系統的かつ専門性の高い教科指導が可能となり、6年一貫の教育効果がより期待できる。また、外進生の高校初期段階での学習指導を中学校教員が行うことで、中学校・高校間にある学習活動のギャップを解消し、高校での学習活動をスムーズに展開することができ、高校全体の教育活動の活発化が期待できる。

さらに、中高教員が協働で、6年間の系統的・計画的なカリキュラム編成や指導計画作成、教材開発等の研究・研修を推進することができる。

(4) 生徒一人ひとりに対応する6年間継続したきめ細かなサポート体制

心身ともに著しく成長する6年間にわたって、個々の能力や適性に合った相談を実施し、中高の教員が連携して支援する。

- ・ 教育相談...心や体の悩み、学校生活、人間関係や集団生活への適応支援
- ・ 学習相談...個の学習状況に応じた学習支援
- ・ 進路相談...生活のあり方、将来の生き方、将来設計を考えることができるための支援

5 特色ある教育活動

(1) 豊かな人間性や社会性を伸ばすために

ア 「鳩学」(総合的な学習の時間)

～ 信州を基盤に世界を考える幅広い教養を育むための教科横断的な学習～

(ア) ねらいと育てたい力

- ・身近な環境、歴史文化、科学技術について教科横断的に学ぶことを通して、教養を広げる。
- ・長野県の豊かな自然や歴史・文化・産業など地域の特性について、知的好奇心や探究心を育みながら、それらの科学事象や社会事象を地球規模で多角的・多面的に捉える能力を育てる。
- ・地域に対する誇りを持ち、実生活に基盤を置き、環境を大切にしようとする態度を育てながら、地域の自然や歴史・文化を調べたり生活に生かしたりしようとする意欲を育てる。

(イ) 学習内容(例)

タイトル	内容	教科
松代地震観測所の生い立ち	松代大本営建設の経緯	社会
	終戦後の大本営跡の利用目的	社会
	松代地震観測所の役割	理科
世界初！キノコ栽培	キノコ栽培の歴史と屋代高校	社会
	キノコの栽培手順	理科
塩の道と食文化	長野の塩の道について	社会
	塩の道沿いにできた長野独自の食品	家庭
果樹栽培の歴史	果樹栽培の行程と植物の子孫の作り方	理科
	果樹栽培と扇状地	社会
信州新町のジンギスカンと満州開拓団	満州開拓団と中国残留孤児	社会
	長野県の変った食文化	家庭
古墳建造技術と数学	森將軍塚古墳はいつできた？	社会
	測量の技術と数学	数学
	GPSのしくみ	数学
千曲川と人間生活	県歌・信濃の国に描かれる長野県	音楽・社会
	千曲川がもたらす自然の恵み	理科
	千曲川の自然を守る活動	社会
方言学	方言の成り立ち	社会・国語
	長野の方言	国語

イ 高い志で未来を拓くキャリア教育(総合的な学習の時間、特別活動、道徳等)

人間としてのあり方、生き方を考えながら、進路選択の考え方や方法を学び、望ましい職業観、勤労観を育成する。また、高い志のもと、多様な進路実現を可能にするための、6年間の効果的、継続的なキャリア教育を計画していく。

活動(例)

基礎期(中1 中2)	充実期(中3 高1)	発展期(高2 高3)
自己理解	自己啓発	自己実現
(ア) 自己の個性を見つめ、自己有用感を獲得する。 (イ) 働くことへの理解や仕事に関する理解を広げる。	(ア) 自己の適性・能力を理解し、その伸長に努め、自己を受容する。 (イ) 働くことの大切さと厳しさを知り、自己の将来について考える。	(ア) 自己理解を深め、将来の生き方や将来設計を立案する。 (イ) 勤労観、職業観を確立し、進路実現に努力する。
・職業調べ ・職場体験 ・第一線で活躍する社会人から学ぶキャリア講演会 ・先端企業、研究施設等の見学等	・先輩や卒業生との進路学習会 ・上級学校の学部学科研究 ・第一線で活躍する社会人から学ぶキャリア講演会 ・先端企業、研究施設等の見学等	・大学施設見学、体験授業 ・研究施設等の見学、体験 ・出前授業等

ウ 多彩で豊かな体験学習や交流活動（予定）

宿泊研修

- 1年 オリエンテーション合宿、自然体験学習
- 2年 産業・文化施設等体験型研修旅行
- 3年 国内研修旅行、海外語学研修（希望者）

福祉、奉仕体験活動による心の教育の充実

- ・公共施設清掃等の奉仕活動、ボランティア活動
- ・県立稲荷山養護学校との交流
- ・授産施設や福祉施設等の訪問交流
- ・社会体験学習や地域交流

社会性や豊かな人間性を育む異年齢集団による活動

- ・中高合同の学校行事や生徒会行事の実施（文化祭、総合文化発表会、クラスマッチ等）
- ・部(班)活動
- ・中学生が高校生から学ぶチューター制
- ・高校生と語る進路学習会

エ 開かれた集団づくりと道徳教育の充実による人間関係力の育成（特別活動、道徳等）

- (ア) 連帯感を育み、差別を許さない学級・学年・全校集団づくりを行い、人間関係力を育成する。
- (イ) 道徳や特別活動を中心に全教育活動を通して、互いの個性を認め合いながら、人間尊重の精神を養う。
- (ウ) 他人を思いやる心や美しいものに感動する心、自立心や公德心、正義と公正を重んじる態度、自然や生命、人権を尊重する態度、共に生きる心豊かな人間関係を育む教育を推進する。

(2) どの生徒にも探究のおもしろさを実感できるように

ア 学校設定科目「科学リテラシー（仮称）」

(ア) ねらいと育てたい力

科学的・論理的思考、議論、表現、活用のスキルを習得し、科学的・論理的思考力、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等を養成する。

また、総合的な学習の時間「鳩学」、各教科の「深化・発展学習」の学習内容や、自然科学・社会科学・人文科学など、興味関心のある様々な分野について、「科学リテラシー」で身に付けた力を活用し、一人一研究（2年）及び卒業論文（3年）として発表する。

(イ) 学習内容（案）

サイエンスビュー	「疑問・興味」「予想・仮説」「調査・観察・実験」「資料データ分析」「推論・結論」「新たな疑問・興味」等の思考プロセスを多く経験させ、課題を発見する力、データを分析する力、科学的・論理的思考力を育てる。自然科学だけでなく、社会科学・人間科学など幅広い最新の話題を提供し、科学の知識や教養を身に付けさせる。
コミュニケーション	様々な発表会や討論の場を設定し、「読む・書く・聞く・話す」力を高め、議論する力、表現する力を養成する。 国際的な話題に触れ、国際文化の理解を深めるとともに、英語によるスピーチや会話の力を高める。
スキル	情報スキル、コンピュータ活用力を養成する。
プレゼンテーション	グループ討論会（1～3年）、先輩と語る会（1～3年） 一人一研究発表会（2年）、卒業論文発表会（3年）

イ 屋代高等学校の持つ、理数科やSSHで培った理数教育の資源の活用

授業において観察、実験、実習の充実 <各教科>

知的好奇心を揺さぶる大学や研究機関等との連携 <総合的な学習の時間>

最先端技術を学ぶ出前授業（最先端の学問・技術に直接ふれ、視野を広げる） <総合的な学習の時間>

野外実習、博物館や公共施設等の施設見学・体験 <学校行事、総合的な学習の時間>

SSHフォーラム <中高合同学校行事>

6 学校生活

(1) 主な学校行事(予定)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入学式 マラソン大会	前期一斉検査 SSHフォーラム	・定期検査 ・中体連総合体育大会 クラスマッチ	・2年職場体験 鳩祭(学校祭)		・屋高フォーラム ・クラスマッチ ・定期検査	後期一斉検査	・定期検査	・三者懇談		・定期検査 SSHフォーラム	・修了式 ・卒業式 ・総合文化発表会

は中高合同行事

(2) 部活動(班活動)、生徒会活動

ア 部活動(班活動)

6年間の継続的な活動を通して、個性や能力の伸張を図りながら、心身のたくましさを養う。また、部活動を、中高一貫教育校の特色である社会性や豊かな人間性を育む異年齢集団による活動として位置づけ、中高合同の活動を積極的に推進する。中学生の生徒数(各学年80名)、高校の部員数、活動場所・施設、指導体制等を考慮して、中学校設置可能予定の部活動について決定する。

イ 生徒会

幅広い年齢構成を生かし、中学生と高校生が共に活動し、豊かな人間関係を築きながら、協調性や責任感を育むために、中高合同の生徒会を組織する方向で検討中。ただし、中学生にもリーダー性や運営企画能力・自治能力等を伸長できるようにするために、中高がそれぞれ単独でも活動できるように、組織編制を工夫する。

(3) 校歌、校章、校旗

ア 校歌 長野県屋代高等学校校歌を踏襲

イ 校章 旧埴科中学校の校章を改良

ウ 校旗 校章をもとに新調

(4) 制服等

ア 制服

県立中学校として品位や連帯感が持て、公的な儀式にも適するように、中学生は学校指定の制服を着用する。(義務教育課程を修了した高校生からは、自立の節目として制服を自由とする)

イ その他

通学かばん、運動着、上履き等についても学校指定のものとする。

(5) 給食

食育の教育活動への位置づけを含め、現在検討中。

(6) 通学方法

学校周辺の道路の交通量が激しい地域であることから、生徒の安全を考慮し、通学方法は、徒歩と交通機関利用を原則とする。自転車通学については通学可能範囲や自転車通学の決まりを定め、交通機関の利便性と安全性を考慮した許可制とする方向で検討中。

7 施設設備

- 屋代高等学校の既存施設を共同使用する。併設型の中高一貫校の利点を生かし、高等学校の施設を共有して、互いに協力や交流をしながら共に学ぶ。屋代高等学校の既存施設を活用し、中学校課程を実現するための必要な施設や、教育課程の特色化を実現するための施設設備を整備する。
- 高校生を含む生徒への影響を最小限にする配慮をしながら、屋代高等学校の敷地内に中学生棟(2階建て、普通教室6クラス、技術室等)となる新校舎を建設する予定である。

平成 24 年度長野県立中学校入学者選抜大綱（案）

高校教育課

1 募集定員

80 名（男女同数を基本とする。）

2 入学志願資格

次の(1)又は(2)に該当する者とする。

- (1) 平成 24 年 3 月に、小学校又は特別支援学校の小学部（以下「小学校」という。）を卒業する見込みの者で、保護者（親権者又は後見人をいう。）とともに長野県内に居住する者（ただし、自宅からの通学を基本とする。）
- (2) 長野県教育委員会が特別に志願を承認した者

3 入学者選抜の日程

項 目	期日又は期間	備 考
(1) 志願受付期間	平成 23 年 11 月 15 日（火） から 11 月 17 日（木）まで	長野県立中学校に持参又は 郵送（期間内必着）
(2) 適性検査等の検査期日	平成 23 年 12 月 10 日（土）	
(3) 入学予定者の発表期日	平成 23 年 12 月 19 日（月）	午前 9 時以降
(4) 入学確約書の提出期限	平成 23 年 12 月 26 日（月）	午後 5 時まで

4 入学志願

- (1) 他の公立中等教育学校又は公立併設型中学校を志願することは認めない。
- (2) 志願手続（提出書類）
 - ア 入学願書
 - イ 入学審査料収入証紙納付書 2,200 円の長野県収入証紙をはったもの
 - ウ 在籍小学校長が作成する報告書

5 入学者の選抜

(1) 選抜の資料

- ア 長野県教育委員会が実施する選抜のための適性検査の成績
- イ 志願者の在籍小学校長から提出された報告書の内容
- ウ 志願者に対し実施する面接の結果

(2) 適性検査の内容

- ア 小学校学習指導要領に基づき、長野県立中学校入学後の学習や生活に取り組んでいく上で必要な適性を検査することを基本とし、入学後に求められる思考力・判断力・表現力等を見ることができる総合的な問題とする。
- イ 適性検査 では、主として社会や人に対する関わりをみることとし、文章や資料（図表、地図、グラフ等）の内容を読み取り、背景にある法則性に気付いたり、自分の考えをまとめて文章で表現したりする力をみる。また、読み取った内容から課題を明確にし、適切な解決方法を考え、多様な方法により表現する力をみる。

ウ 適性検査 では、主として自然や数理に対する関わりをみることとし、自然科学や数理的な問題を通して、科学的に探究する意欲や、見通しを持ち筋道を立てて考える力、数理的に処理する力をみる。また、自然科学の事象について、観察や実験などにより問題を解決していく力をみる。

エ 適性検査 及び適性検査 の内容については、小学校6年生の概ね2学期までに学習した内容をもとにしたものとし、ともに筆記による検査とする。

(3) 面接の内容

ア 集団面接とする。

イ 1グループの人数は6～8人を目安とする。

ウ 面接時間は1グループ概ね20分間とする。

(4) 適性検査等の日程

検査等	時間	備考
受付	9:00～9:20	
点呼, 諸注意	9:20～9:40	
移動, 入室	9:40～9:50	
適性検査	10:00～10:50	
休憩	10:50～11:10	
適性検査	11:10～12:00	
昼食, 休憩	12:00～13:00	
控え室着席	13:05	
面接	13:10～17:10	面接終了者から解散

公共交通機関の関係で、検査に支障のない範囲で時刻を変更することができる。

6 報告書の作成

(1) 報告書記載事項(様式はA4判縦長とする。)

ア 学籍の記録

イ 各教科の学習の記録(観点別学習状況及び評定)

ウ 外国語活動の記録

エ 総合的な学習の時間の記録

オ 特別活動の記録

カ 行動の記録

キ 出欠の記録

ク 総合所見及び指導上参考となる諸事項の記録

(2) 報告書の記入に当たっては、小学校児童指導要録の「記入上の注意」を参考とするものとする。第5学年については、小学校児童指導要録に基づいて記入し、第6学年については、第一学期及び第二学期の評価等を十分参考として当該年度の10月31日現在における児童の評価等を記入するものとする。

長野県屋代高等学校附属中学校（仮称）入学者選抜適性検査（試行）
実施要項（案）の概要

高校教育課

1 目的

本県初のモデルケースとして設置する中高一貫校のため、次の目的において適性検査（試行）を実施する。

- (1) 小学生や保護者、教育関係者、並びに広く県民に適性検査の内容・形式等について周知、理解を図る。
- (2) 予め試行することで、入学者選抜に係る実施方法や運営等の課題を探る。

2 実施期日及び実施場所

平成 22 年 12 月 11 日（土） 長野県屋代高等学校

3 実施日程

検 査 等	時 間	備 考
受 付	9 : 0 0 ~ 9 : 2 0	
点 呼 , 諸 注 意	9 : 2 0 ~ 9 : 4 0	
移 動 , 入 室	9 : 4 0 ~ 9 : 5 0	
適性検査（試行）	1 0 : 0 0 ~ 1 0 : 5 0	
休 憩	1 0 : 5 0 ~ 1 1 : 1 0	
適性検査（試行）	1 1 : 1 0 ~ 1 2 : 0 0	
アンケート記入	1 2 : 0 0 ~ 1 2 : 1 0	

4 対象者並びに人数の制限

県内の小学校 5・6 年生の希望者とし、上限 280 名とする。なお、希望者多数の場合は抽選とする。

5 募集方法

県内小学校に募集案内を配付するとともに、長野県教育委員会 Web サイトに掲載する。

6 申込期間及び申込方法

平成 22 年 11 月 16 日（火）から 11 月 18 日（木）までの間に、保護者の同意した適性検査（試行）受検申込書を開設準備室（屋代高等学校内）に持参又は郵送により申し込むものとする（期間内必着）。

7 受検料

受検料は無料とするが、郵送料は自己負担とする。

8 適性検査（試行）の内容

平成 23 年 12 月に実施予定の適性検査に準ずる。ただし、現行小学校学習指導要領に基づき、新学習指導要領の移行措置の内容を含む。

9 適性検査（試行）結果の受検者への通知

適性検査（試行）及び適性検査（試行）のそれぞれの得点を、1 月中旬頃に保護者宛郵送する。

10 適性検査（試行）受検時の不慮の事故等への対応

当日の受検会場内における不慮の事故等については、全て自己の責任とし、主催者は応急処置を除き、その他の事故・紛失・盗難については一切責任を負わない。なお、主催者側において参加者全員に対して傷害保険に加入する。

11 個人情報の取り扱い

受検者から提出された申込書並びに検査結果などの個人情報は、県立学校の教育制度及び入学者選抜制度の改善のための調査及び研究の目的以外には利用しない。

12 適性検査（試行）の問題の公表

適性検査（試行）の問題及び解答例を出題の趣旨、評価の観点とともに公表する。併せて、長野県教育委員会 Web サイトにも掲載する。ただし、著作権には十分配慮する。